

2022 年度（令和 4 年度）
小林市地域学校協働活動推進事業
（ K S S V C ）

実 践 記 録 集



小林市教育委員会

こばやしスクールサポートボランティアセンター

はじめに

本市の地域学校協働活動推進事業(当初は学校支援地域本部事業)は平成20年に始まりました。現在、すべての小・中学校21校に学校運営協議会が設置され、コミュニティースクールの機能を生かした取組が行われています。

この3年間は、コロナ禍で人と人とが繋がるのが難しくなっています。そういう中で「地域と学校の連携・協働」を目指し、様々な工夫をして活動を継続していただいている皆様の御努力に、心より敬意を表し、感謝申し上げます。

児童生徒を分散しての活動やリモート授業、タブレットを活用した話し合い活動など、ソーシャルディスタンスに配慮した取組が多く見られるようになりました。これらの創意工夫は、今後の教育活動に大きな効果をもたらすものと考えています。

さて、本市の地域学校協働活動は年間約6千件、参加者は延べ3万人に上り、数字だけを見るならば、市内の小・中学校に活動が定着していると言えます。しかしながら、活動そのものは目的ではありません。少子高齢化の影響が深刻な市町村の一つとして、住みやすく持続可能な社会をどう創っていくのか、そのような社会を担う子どもたちをどう育てるのか、学校と子どもたちに関わる全ての人々が話し合い、連携し、新たな活動を生み出していくことが求められています。

また、コミュニティースクールの理念である「地域とともにある学校づくり」のために、学校運営協議会の役割も考えなければなりません。学校からの報告と委員の承認で終わるのではなく、地域と学校がパートナーとして「学校を核とした地域づくり」を目指すことが大切です。その為にも、地域が学校を支援し学校が地域に協力するという「双方向の関係」から、共通の目的をもった個人や団体が任意につながる「緩やかなネットワーク」が重要になってくると考えます。

学校運営協議会委員でもある地域コーディネーターの皆様や、各校区のまちづくり協議会を始め、さまざまな組織・団体・企業と繋がる中で、地域の特色を生かした活動を推進していくことが、これからの小林市には求められています。さらには、地域の一員としての児童生徒の参画にも期待しているところです。

本実践記録集には、各学校の特色ある取組や成果と課題、今後の方向性等が掲載されています。教職員や保護者のみならず、地域の皆様にも手に取っていただき、本市の取組に御理解と御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後に、本冊子の編集にあたり、御協力いただきました関係各位に対して、厚くお礼を申し上げますとともに、各学校において積極的に活用されることを心より願っています。

令和 5年 3月

小林市教育委員会
教育長 中屋敷 史生

目 次

はじめに

1 実践報告

小 林 小	P 1
南 小	P 2
細 野 小	P 3
西小林小	P 4
東 方 小	P 5
永久津小	P 6
三 松 小	P 7
幸ヶ丘小	P 8
須 木 小	P 9
野 尻 小	P10
栗 須 小	P11
紙 屋 小	P12
小 林 中	P13
細 野 中	P14
西小林中	P15
永久津中	P16
東 方 中	P17
三 松 中	P18
須 木 中	P19
野 尻 中	P20
紙 屋 中	P21

2 資 料

地域学校協働活動等取材一覧（分野別）	P22
--------------------	-----

1 実施状況 ◎ 今年度初めて実施した活動

- | | |
|-----------------|------------------------|
| ○ 読み聞かせ（通年） | ○ 立番指導（通年） |
| ○ 兵児踊の指導（7月～9月） | ○ 味覚の授業（11月） |
| ○ 福祉講話（10月） | ○ 福祉体験活動（11月、12月） |
| ○ 図書館見学（11月） | ◎ 放送局のはたらきオンライン学習（12月） |
| ○ 小林応援団（11月） | ○ 手話体験（1月） |

ボランティア登録者数(50)人
年間参加者実数(1921)人 見込も含む

【連携・協働している機関】
読み聞かせ「くすの木文庫」 小林市社会福祉協議会

2 特色ある取組の紹介

1 「放送局のはたらきオンライン学習」

○ 活動内容

社会科「情報社会に生きるわたしたち（5年生対象）」では、各種メディアの特徴を調べる活動を設定している。情報を送信するメディアが様々な情報を元に、整理・分類し、正確に分かりやすく伝えようとしていることを捉えることが求められる。コロナ感染に伴い、見学活動ができない中、WEBによるオンライン学習を通じて、アナウンサーや報道デスク、番組編成担当者と直接的に質疑応答することで、児童が興味関心をもって、学習活動に取り組む姿が見られた。



オンラインで説明を受ける様子



スタッフに質問する児童の様子

○ 参加者の声

- ・ テレビの映像技術がとても自然で、今までそんな技術を使っていることを知らなかった。これからはテレビを見るときに映像技術に気を付けて見るようにしたい。（5年男子児童）
- ・ テレビ番組には多くの人が関わっていることを知った。テレビに映っている人だけでなく、多くの人が協力して番組をつくっていることが分かった。（5年女子児童）

3 取組の成果と課題（○:成果 ●:課題）

- オンラインを通して、児童の興味関心に応じた質問や疑問について、実際に報道に携わるアナウンサーや報道デスク、番組編成担当者等から直接答えてもらったことで、情報について深く考える体験活動になった。
- 他の情報産業や情報化社会の進展や問題点など、より多角的な視点から指導を重ねるとより効果的になる。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- ・ 放送局へ早めに申込み、打ち合わせることでより効果的な学習機会にしていく必要がある。
- ・ 外部講師との打ち合わせをしっかりと行い、関連する指導を見通した学習内容の検討を行う。



1 実施状況

<input type="checkbox"/> 読み聞かせ(通年) <input type="checkbox"/> 茶道クラブ(通年) <input type="checkbox"/> 史跡めぐり6年(5月) <input type="checkbox"/> 清掃工場見学4年(6月) <input type="checkbox"/> スーパー見学3年(9月) <input type="checkbox"/> 消防署見学3年(10月) <input type="checkbox"/> 市立図書館見学2年(11月) <input type="checkbox"/> 人権教室全学年(12月) <input type="checkbox"/> 鉢植え(1月)	<input type="checkbox"/> 朝の見守り活動(通年) <input type="checkbox"/> 学習支援ボランティア(通年) <input type="checkbox"/> 出の山見学3年(5月) <input type="checkbox"/> 水源地見学4年(6月) <input type="checkbox"/> 水辺の学習5年(6月) <input type="checkbox"/> 南小祭り全学年(11月) <input type="checkbox"/> 警察署見学3年(11月) <input type="checkbox"/> 租税教室6年(12月)
ボランティア登録者数(39)人 年間参加者実数(120)人 見込も含む	【連携・協働している機関】 <input type="checkbox"/> 南校区まちづくり協議会 <input type="checkbox"/> 読み聞かせサークル「たんぼぼ」 <input type="checkbox"/> フラワーボランティア

2 特色ある取組の紹介

1 活動名 南小まつり
 2 実施日 令和4年11月20日(日)
 3 活動紹介
 講師の先生を招いて、各学年、以下のような体験活動を行いました。

1年生	ちぎり絵	4年生	盆景、和楽器体験、ストーンペイント
2年生	絵手紙、エコバッグ作り	5年生	シンガーソングライター 大野勇太さんによる 音楽演奏&キャリア講話
3年生	お茶体験、しおり作り	6年生	

4 参加者の声
 地域の講師の方々から手ほどきを受け、日頃はなかなかできない体験ができて、本当によかった。子供たちにとって大変有意義な活動となった。(職員の感想)

3 取組の成果と課題

- これまで同様、ボランティアや地域の方の協力が、学習や体験活動の充実、環境整備につながっており、大変ありがたい。
- ボランティアや地域の方と、活動目標や計画を共有できるよう連絡を取り合うことが必要である。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

学校と地域が互いのニーズをもとに連携できるよう計画的に打合せの場を設定したい。

【 細野小学校 】

1 実施状況

- 保護者・ママーズによる読み聞かせ(通年) ○ 登下校の見守り(通年) ○ 心肺蘇生法講習(5月)
- 交通安全教室(4月) ○ 奉仕作業(5月) ○ 風水害避難訓練(6月) ○ 不審者避難訓練(8月)
- そばの種まき(9月) ○ 奉仕作業(10月) ○ 携帯スマホ安全教室(7月) ○ 鑑賞教室(10月)
- 消防署見学(11月) ○ いのちの授業(11月) ○ そば収穫(11月) ○ 史跡巡り(11月)
- 火災避難訓練(11月) ○ いのちの授業(12月) ○ 給食感謝集会(11月) ○ 立志の集い(12月)

ボランティア登録者数(25)人

年間参加者実数(1753)人 見込も含む

【連携・協働している機関】

- 細野まちづくり協議会 ○ JA こぼやし青年部
- 読み聞かせサークル「ママーズ」

2 特色ある取組の紹介

○ 米作り

例年、細野小学校では5年生児童が米作り体験を行っており、今年度も JA 青年部や細野まちづくり協議会の方々にご協力をいただき、田植え、稲刈りを行った。



収穫したもち米は、参観日に販売を行うとともに、そのもち米を使って作ったもちが5年生児童に配付された。以前はもちつきを行っていたが、コロナウイルス感染症の流行のため3年間実施できていない。来年度実施できる状況になった時に、スムーズに実施できるように計画していきたい。

3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 米作り体験を通して、作物を作る大変さや、育てることの難しさ、そして収穫の喜びなどを味わうことができた。
- どの行事に対しても地域の方々が積極的に支援してくださるので、学校教育環境の充実につながった。
- コロナウイルス感染症の流行のため、規模縮小になる行事もあったが、様々なご協力のもと、児童が楽しめる行事を実施することができた。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- ・ 地域の人々の支えで学校の環境が改善されているので、今後も協力していただけるように、連絡や相談を密にとっていきたい。
- ・ 今年度できなかった行事の実施方法などをしっかりと引き継いで、来年度からは例年通り実施できるようにしていきたい。

【西小林小学校】

1 実施状況 ◎ 今年度初めて実施した活動

- 登下校安全指導(通年) ○ 読み聞かせ(通年) ○ 太鼓クラブ(通年)
- 茶飲ん場・放課後子ども教室(通年) ○ 4年清掃工場(6月) ○ 5・6年田植え(6月)
- 6年市庁舎見学・議会傍聴(6月) ○ 3年施設巡り(6月) ○ 3年、5年手話講座(7月)
- 3年グンゼ工場見学(7月) ○ 稲刈り、脱穀(10月) ◎ 3年秀峰高校訪問(11月)
- 2年市立図書館(11月) ○ 3年消防署・警察署見学(11月)

ボランティア登録者数(※登録なし)人
年間参加者実数(110)人 見込も含む

【連携・協働している機関】
にっこばまちづくり協議会

2 特色ある取組の紹介

① 「われら西小林探検隊! ~西小林的すごい『もの・こと・人』を見つけよう」

3年生の総合的な学習の時間では、西小林的自然環境のすばらしさや昔から大切に守られているものがあることをテーマに学習を展開している。今年度は、西小林地域の素材を生かした活動に加え、これからの自分の在り方や生き方を考えるキャリア教育の観点から、先の全国和牛能力共進会において、特別区で優等2席を受賞した県立小林秀峰高等学校の生徒から話を聞いたり、高校の学科の一部を見学したりする学習を計画した。

子どもたちは、年齢の近い高校生から、牛を育てるうえでの苦勞や喜びなど実体験に基づいた話を直接聞くことができ、自分の将来の夢や職業等について大いに参考になったようである。

自分の家でも牛を飼っているけど、知らないことがたくさんあり、とても勉強になった。



② 茶飲ん場・放課後子ども教室

本校では、毎月第1・3水曜日の放課後に、地域のみなさんと子どもたちが触れあう「茶飲ん場・放課後子ども教室」が開催されている。今年度もにっこばまちづくり協議会のご協力により、伝統的な昔のおもちゃで遊んだり、スライムなどの物づくり体験をしたりしながら、楽しく活動を行っている。毎回、興味・関心を高めるようなプログラムが工夫されており、子どもたちは放課後に地域の人と触れ合う楽しさを感じることができている。



3 取組の成果と課題 (○: 成果 ●: 課題)

- 今年度は初めての取組として、小林秀峰高等学校との連携を図ったキャリア教育を計画した。地域の学校と連携を図り、小学生と年齢の近い高校生から直接話を聞くことにより、児童の意欲向上を図るとともに、ふるさと・地域の良さを再確認することができた。
- 教科学習やキャリア教育を目的とした学習活動等に、地域ボランティアを積極的に生かせるよう教育課程を地域との関わりの中で見直し、学習内容を工夫していきたい。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 地域ボランティアの核となるにっこばまちづくり協議会との連携をさらに深め、地域に誇りをもつ児童の育成を図るための教育活動について工夫していく。

【 東方小学校 】

1 実施状況

○ よんみろ会による読み聞かせ(通年) ○ 登下校指導(通年) ○ 二原遺跡見学(6月)
○ 清掃工場見学(6月) ○ SDGsの授業(7月) ○ 県埋蔵文化財センターとのオンライン授業(7月)
○ 新聞についての授業(7月) ○ 水源地見学(7月) ○ COOP見学(9月) ○ 河川清掃と稚魚放流・魚つかみ取り(9月) ○ どこでも博物館(10月) ○ 小林市との協働授業(10月)
○ 給食センターとのオンライン授業(11月) ○ 東方文化財調査(12月) ○ 埼玉リサイクル工場オンライン授業(12月) ○ トヨタカローラ宮崎協働授業(12月) ○ 租税教室(12月)
○ 人権教室(12月) ○ 地域高齢者への年賀状(12月) ○ 給食感謝集会(12月) ○ 小林市の自然環境に関する授業(1月) ○ LGBTの授業(2月予定) 等

ボランティア登録者数(25)人
年間参加者実数(164)人 見込も含む

【連携・協働している機関】

小林市地方創生課、小林市社会教育課、東方まちづくり協議会、小林市人権擁護委員会、県埋蔵文化財センター、県総合博物館、小林漁業協同組合など

2 特色ある取組の紹介

1 地域文化財の活用(二原遺跡見学、県埋蔵文化財センターオンライン授業、東方文化財調査)

○ 活動内容

本年度も、6年生が社会科の授業の一環として地域に残る貴重な文化財である「二原遺跡」の見学を行った。見学に当たっては、社会教育課と連携して地下式横穴墓の内部を公開していただくとともに、ガイドボランティアに協力してもらった。見学後の学習として、宮崎県埋蔵文化財センターの出前授業を実施し、東方地区の様々な遺跡の遺物に直接触れることができた。また、授業の中で発掘現場とオンラインでつなぎ、発掘の現場を実際に見せていただいた。さらに、社会教育課の協力を得て、二原遺跡以外の文化財を調査する巡検を行った。東方地域の豊富な文化財に触れ、新たな発見や驚きをもちながら学習を深めることができた。



二原の見学



オンライン授業



東方地域文化財調査

○ 参加者の声

- ・ 学校のすぐ近くにこんなに貴重な遺跡があるのはすごいと思った。どんな生活をしていたのか知りたい。
- ・ 大和朝廷や沖縄の人と交流をしていたことがわかり、東方地域の重要性に気づいた。発掘調査の現場に興味をもてた。実際に行ってみたいと思った。
- ・ 東方地域にこんなにたくさんの文化財があることを知り、驚いた。これから地域の文化財をアピールしたり、大切にしたりしていきたい。

3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 教材化した地域の文化財を通して、地域への理解を深め、誇りをもたせることができた。見学や調査に際して、専門家やガイドボランティアの協力をいただき、より深い学びにつなげることができた。
- 教材化した地域素材や人材を継続的に活用し、郷土への理解と愛情を深めていく必要がある。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- キャリア教育の視点をもって、総合的な学習の時間の年間計画や活動内容の改善を図り、積極的に地域の人材、素材を発掘、活用していく。

【 永久津小学校 】

1 実施状況

- 読み聞かせ（通年） ○ 登下校の見守り（通年） ○ 放課後子ども教室（通年）
- 生活科支援（1、2年：芋作り） ○ PTAによる奉仕活動（5月、11月）
- 稲作体験（6月～11月 5年生） ○ 蕎麦プロジェクト（9月～12月 6年生）
- 外部講師による学習補助（2年～昔の遊び・3年～味覚の授業・4年～水生生物調査・5年～手話教室・6年～非行防止教室）
- 門松づくり（保護者）

<p>ボランティア登録者数(25)人 年間参加者実数(450)人 見込も含む</p>	<p>【連携・協働している機関】 永久津いきいき協議会 JAこばやし 営農組合</p>
--	---

2 特色ある取組の紹介

(1)「稲作体験」

今年もJAこばやし、営農組合にアドバイスいただき、小中学校合同で計画を立てた。6月27日、苗の植え方を丁寧に御指導いただき、5年生が中学生と一緒に田植えを行った。11月1日には、鎌を使って稲刈りを体験した。

体験を通して、児童は米作りに関わる方の努力や工夫を知ることができた。その体験も含めて、5年生は総合的な学習の時間を活用して、米作りに関するまとめを行った。



PTA主催による地域の方々との交流活動として、1月8日に中学校と合同で収穫した餅米を使って保護者や地域の方と「めの餅」づくりを行った。



また、地区の「母ちゃんの会」の方々の協力で温かい豚汁の振舞いをしていただいた。

(2)「地産地消を目指した蕎麦プロジェクト活動」

JAこばやし、営農組合、地域住民の方々に御協力いただき、9月～12月の期間を使って永久津地区の畑で蕎麦の栽培、収穫を行った。この体験には6年生が参加し、永久津中学校の生徒、永久津保育園園児も一緒に参加した。



9月に種蒔きを行ったが、9月の台風14号による被害により蕎麦の芽が育たなかった。それでも、12月にJAこばやしの協力のもと、蕎麦の実を他の関係機関から集めていただき、年越し蕎麦打ち体験を12月20日に中学校で行った。JAこばやし婦人部の協力もいただき、美味しい蕎麦を食べることができた。

児童は、蕎麦の育成体験を通して、食の大切さにも気付くことができた。永久津ならではの食の体験ができた。

3 取組の成果と課題（○:成果 ●:課題）

- コロナ禍により実施の判断が難しい場面もあったが、保護者や地域の方々の御理解と御協力をいただき、児童は地域との関わりをより深く実感するとともに、食についての関心や理解を深めることができた。
- 実施にあたり、時期や日程等、天候に左右される場合もあったが、計画や打合わせの段階で、柔軟に対応できるように継続して活動を取り組む必要がある。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 学校行事や地域、関係機関との連携による行事に関しては、日程や時間も含め、ある程度綿密な打ち合わせを年度当初にしておく。
- 地域行事に積極的に参加し、地域の方々とふれあう機会を増やすとともに、ボランティアを含めた人材発掘に努められるように、地域とのきずなを深める学校のマネジメントを強化する。

1 実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ○ 登校時の見守り隊(通年) ○ 図書室支援(通年) ○ 水曜日の読み聞かせ(2学期) ○ 交通安全教室(4月) ○ スポーツフェスタ準備(5月) ○ リサイクル品収集・美化作業(5・3月) ○ あいさつ・安全運動(6月) ○ AED 救急法講習会(6月) ○ プール清掃(6月) ○ 6年社会科「租税教室」(6月) ○ 5年総合「米作り」準備・補助(6・10月) ○ 6年社会科「小林市の史跡」の講師(7月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 七夕飾り用竹確保(7月) ○ 6年家庭科「調理実習の指導」(7月) ○ 3年社会科「スーパーマーケット」講師(10月) ○ 6年家庭科「ミシンの指導」(10～11月) ○ 非行防止教室(10、12、1月) ○ 学校保健委員会(11月) ○ 門松・イルミネーション作り(12月) ○ クリスマス読み聞かせ(12月) ○ 3・5年「手話教室」(1月) ○ 3年総合「福祉体験活動」講師(1月) ○ 4年総合「岩戸神楽学習」(2月) ○ 4年こすもす科「オオヨドカワゴロモ学習」(2月)
<p>ボランティア登録者数(1)人 年間参加者実数(545)人 見込も含む</p>	<p>【連携・協働している機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小林市役所 ○ 小林市社会福祉協議会 ○ 小林市商工観光課 ○ 小林市交通安全協会 ○ 小林市教育委員会社会教育課 ○ 中央消防署

2 特色ある取組の紹介

1 活動名 福祉体験活動

○ 活動内容

令和5年1月23日、3年生が、社会福祉協議会の協力のもと、視野狭窄メガネ等を使った高齢者体験や車いす、アイマスク等を使った障がい者体験を行った。活動を通して、体が不自由な方の日常生活における苦勞を体感することができた。

また、情に訴えることにとどまらず、体が不自由な方の困難さや不安感を軽減するための知恵や努力が必要であることに気付かせる上でも効果的な活動となった。

さらに高齢者や障がい者が不便を感じなくなるような共生社会を築いていくことが大切であることを学ぶよい機会となった。

【児童の感想】

福祉体験でお年寄り体験をしたとき、足があまり上がらず、体も重くてとても不自由でした。また、目が見えない人の体験をしたときは、とてもこわかったです。体の不自由な人はこんなにこわくて、不安な思いをしているんだなと思いました。

3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 本校は協力的な保護者も多く、外部講師と連携した活動も積極的に行われ、地域に開かれた学校づくりの推進が図られている。
- KSSVCや外部講師と学級担任の連携が図られており、ねらいに沿った活動が展開できている。
- 三松地区にいらっしゃる地域人材の掘り起こしを進め、学校に協力していただく環境をさらに整えていきたい。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 今後も「KSSVCだより」を学校職員や保護者に広く紹介し、他校の活動を参考にしたり、本校ならではの活動に生かしたりしていきたい。
- 総合的な学習の時間やこすもす科のねらいに沿った効果的な活動を、今後も職員間で検討し、実施していきたい。

- 登校時の見守り活動(通年) ○ 読み聞かせ(通年) ○ 子ども農園の整備等(通年) ○ 太鼓指導(通年)
- 放課後子供教室(通年) ○ 交通安全教室(5月) ○ 社会科見学(ゴミ処理場6月)
- 社会科見学(出の山水源地7月) ○ 水泳指導(6・7月) ○ 中学生による読み聞かせ(7・10月)
- 木工教室(8月) ○ 人権教育研修(8月) ○ PTA奉仕活動(8月PTA役員) ○ 幸っ子フェスタ(10月)
- 太鼓フェスティバル参加(11月) ○ 鑑賞教室(11月) ○ かおる幼稚園との交流、職場体験(12月)
- 給食感謝集会(1月) ○ 中学生による吹奏楽演奏(1月) ○ 5,6年薬物乱用防止教室(2月)

ボランティア登録者数(約30)人
年間参加者実数(約300)人
見込も含む

- 【連携・協働している機関】
- 「協働の学校づくり」推進協議会
 - 幸ヶ丘放課後子ども教室
 - にっこばまちづくり協議会

2 特色ある取組の紹介

1 幸ヶ丘太鼓の指導

○ 活動内容

本校職員の指導に加え、『(株)太鼓屋太鼓研修センター「響」』より外部講師を招き、幸ヶ丘太鼓の継承と技の向上を図っている。本年度も、西諸音楽大会、県太鼓フェスティバルに参加した。特に、運動会では地域の方に披露し喜ばれている。また、県太鼓フェスティバルなど大きな舞台上で演奏することで、自信をもって太鼓を叩けるようになった。



【外部指導者による指導の様子】

2 幸っ子フェスタ

○ 活動内容

10月に世代間交流をねらいとして「幸っ子フェスタ」を行った。本年度は、小林市立図書館の協力により、大型絵本の読み聞かせやパネルシアター、ブックトーク、図書館のオリジナル登録者カード作りなどを行った。登録者カード作りでは、保護者や地域の方も作成し、実際に市立図書館の本を貸し出してもらった。いろいろなジャンルの本があり、みんな楽しそうに選書していた。



【パネルシアターの様子】

○ 参加者の声

日頃ゆっくり本を選んだり読んだりする時間が少なかったので、とても有意義な時間ができました。こうやって学校で機会があるとありがたいです。(地域住民の声)

3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 今年度も、コロナ禍での活動であったが、感染拡大防止の対策を行い、地域の方の協力を得て計画的に、教科指導や栽培活動、奉仕作業等、極小規模校の本校ならではの教育活動を展開することができた。
- 地域住民の高齢化等で、地域の負担も大きくなってきているので、人材発掘等を講じる必要がある。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- どのような状況や変化にも順応できるように、関係機関との連携を密にしていきたい。今年度は、市立図書館と連携して活動できたことはよかった。
- 今後も地域に愛され地域に根ざした学校として、学校と地域が双方の思いを生かした活動を目指したい。

【 須木小学校 】

1 実施状況 ◎ 今年度初めて実施した活動

○ 交通立ち番指導（通年）	○ 読み聞かせ（通年）
○ 交通教室（4月）	○ 生活科（安全に関する）学習（6月）
○ 須木に関する学習（6月）	○ 奉仕作業（6月、11月）
○ 低学年芋の苗植え（6月）	○ クラブ活動でのSUP・カヤック体験（7月）
○ 手話講座（9月）	○ 3年生社会科見学（9月）※2回
○ 校内の草抜き作業（10月）	○ 2年生まちたんけん（10月）
○ 消防署見学（10月）	○ 2年生生活科見学（11月）
○ 3・4年生森林環境学習（11月）	◎ 150周年記念式典（11月）
○ 4年生社会科見学（11月）	○ うなぎの放流体験（11月）
○ 2年生まちたんけん（12月）	○ 租税教室（12月）
○ 非行防止教室（12月）	○ 警察署見学（12月）
○ 保育園との交流（12・1月）	○ 火災の避難訓練（1月）
○ 人権教室（12月）	
ボランティア登録者数（21）人 年間参加者実数（179）人 見込も含む	【連携・協働している機関】 小林市役所須木庁舎、すきむらづくり協議会

2 特色ある取組の紹介

【SUP・カヤック体験(クラブ活動)】

コロナウイルス感染拡大により、昨年度は実施ができなかったが、今年度も、須木庁舎地域振興課の御協力を得て、クラブ活動でSUP・カヤックの体験をすることができた。

2年ぶりの体験(6年生)や初めての体験(4・5年生)で、インストラクターの方の御協力をいただいたことで、楽しく充実した活動ができた。須木ならではの体験であり、地域の方々の協力も得ながら今後も継続して実施をすることで、子供達の須木に対する地元への思いを強くしていきたい。



【草抜き作業】

昨年度に引き続き、須木商工会女性部の方々からの申し出があり、校内の草抜きの作業を行っていただいた。全校児童、職員も少なく、思うように除草作業などができていないところでの作業で、非常に有り難かった。2時間の作業で、校内が見違える程きれいになった。後日実施した保護者・児童・職員による奉仕作業も範囲が減り、負担の軽減が図られた。



3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 地域の方に学校環境整備作業を行っていただき、保護者・児童・職員の負担を減らすことができた。
- 地域や地域人材との交流を行うことで、地域に対する児童の意識を高めることができた。
- 依頼する人材が限定されており、新たな活動を組み込むのが難しくなっている。
- コロナウイルスへの感染リスクがあるため、お年寄りの方と交流する活動の実施が難しい。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- コロナウイルス感染拡大等の場合でも中止や延期をせずに実施できる方法を模索し、より効果的な学校支援の在り方を検討していく必要がある。

【 野尻小学校 】

1 実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み聞かせ（通年） ○ 伝統芸能指導【棒踊り】（6～9月） ○ 地域の歴史学習支援（4年11月） ○ 田植え・稲刈り支援（6月・10月） ○ 国際理解教育支援（3・4年授業支援） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校安全指導（通年） ○ 学習支援<プリントの丸付け・印刷他>（通年） ○ 芋植え・芋掘り支援（5月・10月） ○ 収穫祭（12月）
ボランティア登録者数(45)人 年間参加者実数(136)人 ※R4.12月現在	【連携・協働している機関】 JA こばやし・営農組合 輝けフロンティアのじり・読み聞かせボランティア 国際交流支援の会

2 特色ある取組の紹介

【地域の歴史学習支援】

本校で実施される学習支援の1つに「地域の歴史学習支援」があります。毎年、4年生の社会科の地域の偉人についての学習において、地域住民の方を講師にお招きし、野尻原開田事業を成し遂げた地域の偉人「田丸貞重」についてのお話を聞いたり、野尻原用水路に見学に行き、説明を聞いたりしています。

今年も「田丸貞重」の取組をもとに、「夢をもつことの大切さ」「目標に向かって努力することの大切さ」「力を合わせることの大切さ」などを語って頂き、授業後は、子ども達は「共同助力」について友達と話していました。

学習を通して、先人への感謝や地域を愛する心の育成に大いにつながるものと思います。



講話の様子

【朝の読み聞かせ活動】

今年も、月曜日の朝の時間(8:15～8:30)に、地域の読み聞かせグループ「たんぼぼ」による読み聞かせを行いました。

令和4年度は、年間20回の読み聞かせを計画・実施していただいています。1年生から6年生まで、そして、職員も毎回、読み聞かせの時間を楽しみにしています。たんぼぼグループによる読み聞かせは、声色の心地よさやお話の中で心躍る想い、ワクワク感やドキドキ感を実感することができます。

子ども達は「読み聞かせがある、嬉しい」、職員は「色々な本を準備していただきありがたい」、ボランティアの方は「子ども達の反応がいいから、読んでいて楽しい」と、それぞれに好感想を持っています。朝の読み聞かせは、みんなにとって1日のいいスタートにもなっているようです。



読み聞かせの様子

3 取組の成果と課題（○成果 ●課題）

- 児童にとっては、地域の方との関わりの中で、郷土愛や学習意欲の向上が図られた。
- 職員にとっては、学習支援ボランティア導入により、児童と直接向き合う時間をより確保できた。
- 地域住民等にとっては、ふれあいの場となり、学校での絆づくりを推進することができた。
- 学習支援ボランティアの依頼を毎回行う職員とそうでない職員の二極化が見られた。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 学校コーディネーター(教頭)が早めに担当者(授業者)と打合せをして、充実した教育活動が展開できるように、教育活動の目的や流れ、配慮事項等を確実にボランティアにつなぎたい。
- 地域学校運営協議会や職員研修等で地域と学校による協働活動の成功例を紹介したり、協議したりすることで、活動の幅を広げていきたい。

1 実施状況

- 読み聞かせ（毎月1回、朝の活動の時間に実施）
- 学習支援ボランティアによる授業支援（通年）
- 通学時におけるあいさつ運動（地区別とPTA専門部会を交互に、毎月実施）
- PTA奉仕作業および環境整備部美化活動（年間5回実施）
- 学校田での稲作活動の支援（PTA事業部が中心、6月田植え、11月稲刈り）
- 梅ちぎり（5月）
- プール清掃における消防団の協力（6月）
- 総合的な学習の時間における「鉦踊り」の伝承活動の支援（保存会の方から 8・9月）

支援ボランティア登録者数（6人）
年間参加者実数（880人） 見込も含む

【連携・協働している機関】

- 読み聞かせボランティア「たんぽぽ」
- みかんやまスマイル会議

2 特色ある取組の紹介

○ 梅ちぎり

学校下にある梅畑で、1年生が毎年5月に地域の方々と梅ちぎりを行っている。ちぎった梅は農産加工センターの協力を得て、梅干に加工した後、家庭に持ち帰っている。梅ちぎりは毎年地域の方と1年生が共に活動し、楽しく会話をしながら交流する場となっている。



○ 栗須っ子米（もち米）

学校近くにある学校田で、今年は種籾から「栗須っ子米」（もち米）を育てる活動を行った。苗から育てていた昨年度までと違い、種籾から育てることで、より稲の成長について興味・関心をもって学ぶことが可能となった。地域の様々な方と触れ合いながら田植えから収穫まで行う「栗須っ子米」作りの活動は、栗須小に欠かせない体験活動の一つとなっている。



○ 鉦踊り

鉦踊り保存会の協力を得て、野尻町三ヶ野山地区に伝わる、郷土芸能「鉦踊り」の練習と発表を行っている。鉦踊りの練習を通して地元の人々との交流や、その継承の意義について学び、ふるさとを愛する心や誇りに思う心を育てている。本年度の運動会では「子ども鉦踊り」として、5・6年合同で鉦踊りを舞い、発表を行った。



3 取組の成果と課題（○成果 ●課題）

- 例年、学校で行われる様々な活動に地域住民や関係機関にご協力いただいている。三ヶ野山地域に伝わる「三ヶ野山魂」により、子供たちのため、学校のためと惜しみなく力を尽くしてくださっている。
- 本年度もコロナ禍により、学校支援ボランティアの活動の場が減少し、その好意を活かしきれなかった。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- ボランティア会議等の定期的な協議の場を設けて情報交換を行うと共に、今後のよりよい取組のために、子供たちのために何ができるかを共に考え活動していく連携・協働の仕組みを整えていく必要がある。

1 実施状況

- 読み聞かせ（通年） ○ 登下校の見守り（通年） ○ 文化伝承活動「城攻め踊り」（通年）
- 環境整備活動（通年、一斉は年2回） ○ 運動会支援（9月）
- 学習支援：生活科「七夕飾りづくり」（7月）、「昔の遊び」（10月）
- 体験活動支援「もち米づくり」（6月：田植え、11月：稲刈り、通年：除草等）
 「イモの栽培」（5月：イモの苗植え、10月：イモ掘り、通年：除草等）
 「わらじ作り」、「こんにゃく作り」（10月）

ボランティア登録者数(27)人
 年間参加者実数(308)人 見込も含む

【連携・協力している機関】
 読み聞かせグループ「たんぼぼ」

2 特色ある取組の紹介

（1）文化伝承活動「城攻め踊り」

紙屋地区に伝わる伝統芸能「城攻め踊り」について、城攻め踊り保存会の方からその歴史について講話をしていただき、その後練習を行っている。練習では、保存会の方に指導してもらったり、6年生が4・5年生に踊りを教えたりしている。小中合同運動会は規模を縮小しての開催となり、オープニングセレモニーとして城攻め踊りを披露することができた。

城攻め踊りについては地域の方の思いも強く、後も地域の伝統芸能として末永く紙屋地区に残していくための大きな役割を担っている。



（2）ふれあい体験活動 4年「わらじ作り」

令和4年度より新たな取組として、「ふれあい体験活動」を実施した。それぞれの学年で地域の方々を招き、児童及び保護者も一緒になって活動を行った。

4年生はわらじ作りを体験した。わらをほぐす作業から始め、手もみして束ねたわらを自分の手足を使って編み込む作業を講師の方々から丁寧に教えていただいた。

作ったわらじは、運動会で披露した城攻め踊りの際に着用した。



3 取組の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 豊富な地域人材に恵まれ、子どもたちは恵まれた環境の中、様々な教育活動の支援をしていただいている。ボランティアの方々には普段から学校へ足を運んでいただき、児童との交流が図られている。
- 新型コロナウイルスの影響により、本年度も活動の中止や規模を縮小して実施せざるを得ないことがあった。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

学習支援の内容について、振り返りと改善を行っていくためにボランティア会議の充実が必要である。また、新規ボランティア発掘のために今後地域への呼びかけを行っていきたい。

1 実施状況

○ 交通教室（４月）	○ 薬物乱用防止教室（５月）
○ 救急救命講習会（８月）	○ 「いのちの教育」平和学習（８月）
○ 農業体験学習（９月）	○ 手話講座（１１月）
○ リコーダー講習（１１月）	○ 職業講話（１２月）
○ 避難訓練（１２月）	○ L G B T講話（１２月）
○ デジタル・シティズンシップ講座（１２月）	○ 鑑賞教室（１月）
○ 租税教室（１月）	○ 立志式（２月）
○ 部活動支援、読み聞かせ（通年）	○ 朝のあいさつ運動（９月、１月）
ボランティア登録者数（ 18 ）人 年間参加者実数（ 217 ）人 見込も含む	【連携・協働している機関】 KSSVC事務局・小林市キャリア教育支援センター等

2 特色ある取組の紹介

【農業体験学習】

昨年度に引き続き、1年生を対象に9月に実施した。北きりしま田舎物語推進協議会の協力をいただきながら計画や準備を進め、本校の人数の規模や新型コロナウイルス感染防止の観点から、日帰りでの体験学習とした。

受け入れ家庭は25カ所で、昨年度より増加し多くの方々にご協力をいただいた。体験先の家庭への送迎も各家庭に行っていたが、ありがたい限りであった。生徒たちは、6名程度のグループに分かれて、それぞれの家庭で農業体験を行った。以下は生徒の感想である。

- ・「普段、家では体験できないことをたくさんでき、いろんなことを学ぶことができました。初めて会ったとは思えないほど、地域の人たちが優しくいろいろなことを教えてくれました。」
- ・「当たり前前に食べていた食材は、農家の方々が毎日丁寧に育てていたものなんだと知り、改めて食の大切さを学びました。当たり前前に食べられる幸せを忘れないようにしたいです。」



3 取組の成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 北きりしま田舎物語推進協議会が中心となって、体験する各家庭との連絡調整、送迎の準備等進めていただいた。職員の手を煩わすことがないため、ありがたい事業である。体験する家庭と同協議会が中心となって進めていただいた。
- コロナ禍で、日帰りの体験学習となったが、農家の方々も民泊することを願っているようなので、宿泊体験等が実現できるように、関係機関と検討していきたい。





4 課題解決の方策、今後の方向性など

今回の農業体験では、準備等での学校の負担感が少なかった。改めて、学校に協力する地域の姿勢に心を打たれた。地域学校協働活動を継続していく上で、負担感より満足感や達成感が勝るような取組を今後も計画していかななくてはならない。

1 実施状況 ◎は今年度初めて実施した活動

<p>○読み聞かせ（通年） ○朝のあいさつ運動・ふれあい登校（通年） ○部活動支援（通年） ○交通安全教室（4月） ○農業体験学習（7月：1年） ○職場体験学習（7月：2年） ○情報安全教室（7月） ○消費者教育（9月：3年） ○細野地区クリーン作戦（10月） ○図書館まつり（10月） ◎人権学習講座（12月）</p>	<p>◎キャリア教育講演会（12月） ◎小林市PR活動（12月：2年） ○薬物乱用防止教室（12月） ○駅伝ロードレース大会（12月） ○門松づくり（12月） ○根性行進・ふるまい（1月） ◎キャリアを考える会（1月：1年） ○面接指導（1月：3年） ○立志式（2月：2年） ○福祉体験手話講座（12月：3年）</p>
<p>ボランティア登録者数 （ 0 ）人 年間参加者実数 （ 120 ）人 *見込も含む</p>	<p>【連携・協働している機関】 ○細野まちづくり協議会 ○北きりしま田舎物語推進協議会 ○市教育委員会スポーツ振興課 ○社会福祉協議会 ○KSSVC ○読み聞かせグループ：ママーズ</p>

2 特色ある取組の紹介

<p>《キャリア教育活動》 『ふるさと再発見～小林市PR活動～』 12月に実施された修学旅行にあわせて、こすもす科の学習活動の中で小林市をPRするグッズ（パンフレット・ファイル・うちわ・缶バッジ）を製作し、長崎駅で駅利用者にグッズを手渡して小林の魅力伝える活動に取り組んだ。</p>   <p>〔生徒の感想〕 デザインが難しかったが、工夫することが楽しかった。小林の魅力を知ることができた。</p>	<p>《キャリア教育講演会》 『目標・行動・習慣・人格が夢を叶える』 夢に向かって努力し、夢をつかんだ先輩の体験談を通して、自己実現に向けてチャレンジし続けることや自分らしい生き方の実現を学ぶこと、ふるさとを想い、多様な人と関わり合いながら主体的に社会に参画し自己実現に向けて学び続ける人づくりなどをねらいに細野小学校6年生・細野中学校全校生徒に向けて開催した。卒業生であるプロゴルファーの脇元華様を講師に開催した。</p>   <p>〔生徒の感想〕 努力は必ず報われるという言葉聞いて、もう一度、自分の目標に向けて努力したいと思った。また、いつも支えてくれる家族や周りの人に感謝して頑張りたいと思った。</p>
---	---

3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 様々な関係機関をはじめとして、多くの地域の方々の支援や協力のもと行事を実施することができた。そのことが生徒にとって地域への感謝の気持ちであったり、貢献する意欲の高揚、将来に対する意欲の喚起につながっている。
- 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの学校行事等が日程や実施形態を変更、中止などの措置を執る中で実施された。今後、この状況は若干改善されると期待されるが、新たな視点で生徒に多くのことが還元できる取組を工夫していくことが課題である。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 学校行事に対する地域、関係機関とのスムーズな連携は、活動の見直しや精選を図りながら教育課程として編成していく必要がある。あわせて、働き方改革の視点に立った教育課程の編成など見直しや改善の視点が必要であると思われる。

1 学校支援の実施状況 ◎ 今年度初めて実施した活動

○ 読み聞かせ（通年） ○ 交通教室（4月） ○ 技術・家庭科（さつまいもの植え付け：5月、さつまいもの収穫：11月、さつまいもを使った郷土料理調理実習：2月） ○ 不審者対応避難訓練（5月） ○ 認知症サポーター養成講座（6月） ○ 手話講座（7月） ○ 平和学習（全校集会：8月） ○ 防災学習（9月）
 ◎ 火災対応避難訓練【煙体験】（11月） ○ キャリア教育「未来予想図講話」（11月） ○ ライフプラン教室（12月） ○ 農業体験（11月） ○ キャリア教育「職場体験学習」（11月） ○ キャリア教育「未来予想図発表会」（12月） ○ 立志式（2月） ○ 先輩と語る会（3月）

ボランティア登録者数(0)人

年間参加者実数(約150)人 見込も含む

【連携・協働している機関】

○西小林地区婦人会 ○にっこばまちづくり協議会

○社会福祉協議会 ○読み聞かせグループ:ゆめいろ文庫

2 特色ある取組の紹介

《地域人材を積極的に活用したキャリア教育(生き方を語る教育)の実践》

1 6月:「認知症サポーター養成講座」(3年)

これまでも実施していた講座であるが、昨年度同様、その学びを深めるために、小林市社会福祉協議会と連携し、高齢者疑似体験学習も実施した。

認知症を患う高齢者への対応を学ぶだけではなく、高齢者が介助を必要とする場面や「福祉」という大きな考えでとらえることができるようになり、大きな成果を得ることができた。



2 10月:「未来予想図講話」(3年)

「地域人材を積極的に活用したキャリア教育」に取り組む中で、最終ゴールと設定している「未来予想図」作成において、生徒たちが主体性をもって、課題解決に取り組むきっかけとして「未来予想図講話」を実施した。アドバイザーとして小林市役所地方創生課の方や小林まちづくり株式会社の方々に講話をしていただき、その後にフリーディスカッションも設定した。



3 11月:「農業体験」(2年)

本校の伝統行事の一つになる「郷土料理づくり」である。これは第2学年が技術・家庭科の授業の一環として、5月に芋の植え付け作業を行い、11月に収穫作業を行っている。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のためその収穫した芋を材料としての調理実習を延期したが、地域の婦人会の方の協力を得て、各学年で郷土料理の一つである「がね」をつくる活動を実施する予定である。



3 取組の成果と課題(○:成果 ●:課題)

○ 昨年度の成果を土台にしながら、更なる見直しを行い、地域人材を活用したキャリア教育の質の向上を図ることができた。コロナ禍の中で、感染防止対策を行いながらの実施ではあったが、地域住民の学校教育への参画意識がさらに高まったと感じる。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

● 今後は、現状に満足することなく、地域の方々の意見にさらに耳を傾け、よりよい取組となるよう、また本校ならではの持続可能な取組となるよう、カリキュラムおよび学習内容等の更なる見直しと改善を図っていきたい。

1 実施状況 ◎は今年度初めて実施した活動

- | | | |
|------------------------|-------------------|----------------------|
| ○ 読み聞かせ（通年） | ○ 交通安全教室（4月） | ○ PTAによる美化活動（5月・11月） |
| ○ 芋の苗植え・収穫体験（5月・10月） | ○ 学校保健委員会（6月） | |
| ○ 高校説明会（7月・9月） | ○ 性教育（9月） | ○ 農家民泊（9月） |
| ○ 職場体験学習、福祉体験学習（9月） | ○ ものづくり体験（9月） | |
| ○ 稲作体験（11月） | ○ 手話講座（11月） | ○ 租税教室（11月） |
| ◎ 英語・音楽オンラインセッション（11月） | ○ 蕎麦打ち体験（12月） | |
| ○ PTAによる門松作り（12月） | ○ 永久津いきいき交流活動（1月） | |
| ○ 給食感謝集会（1月） | ○ 食育講話（2月予定） | ○ 薬物乱用防止教室（3月予定） |

ボランティア登録者数(26)人
年間参加者実数(88)人 見込も含む

【連携・協働している機関】

J A こばやし、営農組合、永久津いきいき協議会
小林市社会福祉協議会

2 特色ある取組の紹介

(1)「芋の苗植え・収穫体験」

○ 地域コーディネーターの皆さんからアドバイスを頂きながら芋の苗植え及び芋の収穫を行った。生徒たちは、苗の植え方で実のつき方が変わることを知り、勉強になったと感想を述べていた。また、収穫した芋を使い、家庭科の授業（調理実習）でさつまいもを使った「サツマイモご飯、ポテトフライ」を作りました。どれも美味しくいただきました。



(2)「オンラインセッション」(英語科・音楽科)



○ 本年度初めて、英語科で海外の学校と結んでのオンラインセッションを行った。アルゼンチンの学校とは、時差の関係で直接の対話形式はできなかったが、お互いが撮影したビデオレターなどを通して交流を図った。マレーシアの学校とは、直接オンラインで結んでお互いが地域や学校の紹介、質問に答える形で交流を図り、国際理解につながった。

○ 音楽科で、本市出身の方が勤務されている大学の学生とオンラインセッションを行った。様々な音楽の形態の紹介に加え、進路決定までの流れなど、キャリア教育の面からも有意義な活動となった。

(3)「門松づくり」「永久津いきいき交流活動」

○ 永久津いきいき協議会と連携して、年末恒例の門松づくり及び年始に「児童・生徒、保護者、地域の皆様との世代間交流」を目的として、交流活動（餅つき体験、めのもちづくり、豚汁の振る舞い）を実施した。親子で協力しながら作ったり、周りの大人に教えてもらいながら作ったりと楽しい時間を過ごすことができました。



3 取組の成果と課題(○:成果 ●:課題)

- 新型コロナウイルス感染症防止対策に取り組んだ上で、保・小・中・保護者・PTAが連携して永久津の伝統を継承している。
- さまざまな活動を展開するにあたり、地域の方々の協力は必要不可欠である。しかし、中には幾つもの役職を兼任している方も多く、負担に感じている方もいる。今後は、地域の人材（後継者）の育成と発掘が課題である。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 地域や関係機関との連携による行事については、活動の見直しや内容を整理する必要がある。
- コロナ禍の中であっても、感染防止対策に取り組んだ上で、学校行事や地域の方々とふれあう機会を実施することができた。次年度以降も継続した取組を行っていききたい。また、回覧板等を活用し、地域への広報活動を図っていききたい。（ボランティア募集等）

1 実施状況

○ 読み聞かせ(通年)	○ 福祉体験学習(6月)
○ 東方輪太鼓踊り指導【輪太鼓保存会】	○ ふれあい体験学習(6月)
○ 花いっぱい運動(通年)	○ 手話講座(7月)
○ 登下校安全指導(通年)	
ボランティア登録者数(25)人	【連携・協働している機関】
年間参加者実数 (355)人 見込も含む	社会福祉協議会・社会福祉法人連絡会

2 特色ある取組の紹介

福祉・進路に関する学習支援【総合的な学習の時間、生徒会活動】

☆福祉体験学習

小林市社会福祉協議会の方々から身体の不自由な人や高齢者への介護の仕方について体験学習をとおして学びました。また、陽光の里では車椅子での介助の体験をしました。



(生徒感想)
体験を通して、介護の仕事の大変さがわかりました。日頃の生活に生かしたいです。

☆花いっぱい運動

全校生徒で育てた花をお世話になった学校支援ボランティアさんや高齢者福祉施設、一人暮らしの高齢者に届ける活動をしています。



☆手話講座

講師から手話での自己紹介を教えてくださいました。手話の難しさと大切を学びました。



☆ふれあい体験学習

保育園ふれあい体験を行いました。総合的な学習の時間等で学んだことを実践しました。



☆読み聞かせ

保護者が行っている朝の読み聞かせの活動について、本だけでなく、仕事やこれまでの経験等についての講話をしていただくという内容に変更しました。これまで保護者・生徒の祖父・祖母が来校されました。生徒には大変好評で、キャリア教育の一助となっています。



3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 総合的な学習の時間は「福祉」の学習に重点をおいて取り組んでいるが、地域の福祉施設の関係者(社会福祉協議会、高齢者福祉施設等)と協力して体験活動や専門的な講話などを行ってくださり、学びの深まりに加えて職業観や勤労観を育む等、望ましいキャリア発達につながっている。
- 輪太鼓踊りについては保護者や保存会の協力もあり本年度は「こばやし秋祭り」で披露することができた。準備や着付け等に多くの時間が係るため工夫が必要である。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 伝統芸能である「東方輪太鼓踊り」を継承するためには、その人材育成が急務であり、学校と地域の連携の在り方を考えていく必要がある。
- 地域とともにある学校づくりの視点で、「おじゃったもんせカフェ」(地域交流スペース)については関係機関との連携を深め活用を図っていきたい。
- 本年度の読み聞かせについては、生徒の感想が好評のため、次年度以降も保護者や地域の方々の力を借りて継続していく。

1 実施状況 ◎は今年度初めて実施した活動

○読み聞かせ（通年） ○登下校安全指導（通年） ○部活動指導（通年）
 ○社会人の声を聞く会（6月） ○高校説明会（9月） ○岩戸神楽（10月）
 ◎台湾との国際交流（10月） ◎キャリア教育講演会（10月） ○花壇植栽（12月）
 ○鑑賞教室（12月） ○手話講座（12月） ○学校保健委員会講演会（12月）
 ○13歳のハローワーク（12月） ○面接指導（1月） ○情報モラル教育（2月）

ボランティア登録者数(0)人
 年間参加者実数(600)人 見込も含む

【連携・協働している機関】

・KSSVC事務局・小林市キャリア教育支援センター

2 特色ある取組の紹介

【台湾との国際交流】

今年度、小林市が台湾との国際交流に取り組むことになり、中学校の拠点校に三松中学校が指定されたことから、小林市キャリア教育支援センターの協力を得て、西都市在住のコーディネーターの方をご紹介いただいた。台湾の三星中学校と年3回の英語の授業を計画・実施することができ、全校生徒が国際交流する機会を得て、大変盛り上がり貴重な経験をする事ができた。日頃学んでいる英語を生かすことができる良い機会となったため、来年度もできれば続けていきたい。



【岩戸神楽】

地元神社に伝わる神楽を2年生が舞うことが三松中の伝統となっている。神社にある衣裳などを含め道具をお借りし、神楽保存会の方々のご指導で学年一丸となって文化発表会で発表しており、今年度も立派に舞うことができた。後継者がいない、育たない現状があり、地元の方が困っていることを聞く。神楽を子どもたちに伝えることで、今後継続して伝統を守るきっかけにできたと思う。代表で演技した者にとっては、とても良い経験になっていると考える。



3 取組の成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 地域の方々との新しいつながりができ、これまで経験したことのない取組に挑戦することができた。恒例となっている行事についても、新しく関わってくださる方々も増え、新鮮な経験ができた。
- 今年度も、学校と地域コーディネーターとが連携し、担当の学年主任を通して密に連絡を取り合い、準備をすることができた。今後もしっかりとした連携を続けていきたい。
- コロナ感染症の関係で、地域ボランティアの募集や地域行事への参加等の活動ができなかった。今後、募集の仕方を工夫したり地域行事を積極的に把握する等、地域の方との交流を増やしたい。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 次年度は、様々な教育活動に協力していただける地域ボランティアの募集に取り組みたい。地域コーディネーターとの連携を密にし、年度初めに地域ボランティアの募集をかけたい。また、中学生や教職員が積極的に地域の行事へ参加するように促していきたい。学校と地域との交流を増やすことで、協働の学校づくりを強化していきたい。
- 地域ボランティアの募集について、各地区長や児童委員、民生委員の方々を通して、広報活動を積極的に進めていきたい。(区長→回覧板を活用)
 また、学校運営協議会、青少年育成市民会議を通しての広報活動も考えていきたい。

1 実施状況 ◎は今年度初めて実施した活動

- | | | |
|---------------------------|-------------------|----------------|
| ○ 読み聞かせ（通年） | ○ 交通安全教室（4月） | ◎ 国際理解講座（6月） |
| ○ 不審者対応避難訓練（6月） | ◎ 宮崎大学との交流授業（6月） | ○ 保育園訪問（7月） |
| ○ いのちの授業（7月） | ◎ 砂防ダム見学・講話（7月） | ○ 薬物乱用防止教室（7月） |
| ○ 情報モラル教育（7月） | ○ 地震対応避難訓練（9月） | ○ マナー講座（9月） |
| ○ 手話講座（9月） | ○ 防災学習（9月） | ○ 命の学習（9月） |
| ○ 水泳指導・見守り（9月） | ○ 職場体験学習（9月） | ◎ 着付け教室（11月） |
| ○ 鑑賞教室（11月） | ○ 火災対応避難訓練（12月） | ○ 年賀状交流（12月） |
| ○ 暮らしの困り事たすけ隊（12月） | ○ リモートによる講話（年間3回） | |
| ○ 小林未来予想図における地域学習（7月～12月） | | |
| ◎ バスの利用講習（3月） | ○ 植樹祭（3月） | |

ボランティア登録者数(30)人
年間参加者実数(100)人 見込み含む

【連携・協働している機関】

学校運営協議会、社会福祉協議会須木支所、須木友愛クラブ
小林市役所須木庁舎、すきむらづくり協議会、小林警察署 等

2 特色ある取組の紹介

【防災教育】

主に1年生を対象に防災教育を実施している。高原町にある砂防ダム見学や新燃岳噴火の対応策や、市の危機管理課より防災士を招き、災害発生時に必要な物資やその扱い方等について学んだ。これらの学習を通し、生徒から「砂防ダムの役割がよくわかった。」、「防災について身近に感じることができた」等の感想が多く、有意義な体験活動となった。



【暮らしの困り助け隊】

冬季休業中に小林市社会福祉協議会須木支所に中心となっていただき、須木地区の高齢者宅等の清掃活動などのボランティア活動を実施した。生徒たちは意欲的に活動し、地域の方々にも好評を得た。



【しめ縄づくり】

12月に須木地区友愛会の方々を講師に招いてしめ縄づくりを実施した。わらを友愛会の方々に準備していただき、なわ叩きからしめ縄の仕方について熱心に指導して頂けた。友愛会の方々にも「楽しみにしていたので、来年度以降もぜひ継続していただきたい。」とお言葉を頂いた。



3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 防災学習や情報モラル学習など、専門分野に長けている地域人材を活用することで、教職員の負担を軽減しつつ、生徒たちの学習意欲を高めることができた。
- コロナ禍の影響で、地域の方とのコミュニケーションが限定されてきたため、地域と学校が繋がる機会を増やしていきたい。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 地域の特色を生かした地域学習ができるよう、さらに多くの地域の方々と新しい協働体制を作っていく必要がある。

1 実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み聞かせ（通年 2か月に1回：たんぼぼ） ○ 部活動指導（通年：7名） ○ 交通教室（4月） ○ 避難訓練「災害時引き渡し訓練」（5月） ○ 救急救命講習会（5月・6月） ○ 学校保健委員会（6月） ○ 高校説明会（6月） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報モラル教室（7月） ○ 薬物乱用防止教室（11月） ○ キャリア教育シンポジウムIN野尻（11月） ○ 人権教育（12月） ○ 性教育（1月・2月・3月） ○ キャリア教育講演会（1月） ○ 給食感謝集会（2月）
<p>ボランティア登録者数（21人）</p> <p>年間参加者実数（102人） 見込みも含む</p>	<p>【連携・協働している機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読み聞かせグループたんぼぼ

2 特色ある取組の紹介

<p>《避難訓練「災害時引き渡し訓練」》</p>  <p>本年度が3回目となるが、自然災害時（緊急時）における生徒の安全確保と保護者との連携をスムーズに行うため、また、安全かつ確実に保護者や引き受け者に引き渡せる様にするをねらいに、中学校区にある小学校2校と同日に合同で「災害時の保護者への引き渡し訓練」を実施した。</p> <p>前回までの反省を踏まえ、地区ごとに色分けした「ネームプレート」を作製し、車のダッシュボードに提示してもらったり、学校付近及び校内への車の進入口を分けたり、校内での車の進行方向を一方通行にしたりするなど工夫改善を加えたことで、特に大きな混乱もなく実施できた。</p> 	<p>《キャリア教育講演会》</p> <p>第1学年のこすもす科の授業「夢を探そう」に、現在、みやぎ家庭教育サポートプログラムトレーナーとして活躍されている福留健一氏をゲストティーチャーにお招きし、「夢を本気で考える人は未来が選べる」を演題に「夢をもつこと」「自分の可能性を信じること」「本気になること」の大切さについてお話しをいただいた。生徒たちにとって自身の未来を考えるよい機会となり、たいへん意義深い時間となった。</p>  <p>☆生徒の感想☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私には、はっきりとした夢がまだない。これから少しずつ夢を探していきながら、心のスイッチを「だるい、面倒くさい」から「頑張る」に切り替わるように努力していきたいと思った。 ・「自分には無理だ」「自分は価値のない人間だ」と決めつけず、自分の可能性を信じてあきらめず、たくさんすることにチャレンジして経験を積みたいと思った。 ・4つの「たいりよく」の話が凄く心に残った。夢を実現するために、どんな職業を選ぶにしても必要な「体力」、困難を乗り越えるために必要な「耐力」、対人関係に必要な「対力」、土台となる基礎学力で必要な「台力」、学校や家庭等様々な場面で意識しながら生活して、身に付けたいと思った。心に刺さる言葉がたくさんあった。
---	---

3 取組の成果と課題（○：成果 ●：課題）

<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍においても「リモート開催」するなど、状況に応じて実施方法を工夫することで対面式と変わらない「学び」を得ることができた。 ● 学校と地域コーディネーターとの相互の連携を密にしていく必要がある。
--

4 課題解決の方策、今後の方向性など

<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事や地域、関係機関との連携による行事については、活動の見直しや精選を図る必要がある。 ○ キャリア教育センターとの連携を今後も継続し、さらにキャリア教育の推進を図りたい。 ○ 様々な活動を展開するにあたり、地域の方々の協力は必要不可欠である。今後は、地域の人材を発掘していくことが課題である。

1 実施状況 ◎は今年度初めて実施した活動

- | | |
|--------------------------------------|---------------------|
| ○ 陸上クラブ指導（通年） | ○ 陶芸教室（7月、9月） |
| ○ 朝の交通指導・あいさつ（通年） | ○ 租税教室（7月） |
| ○ 読み聞かせ（通年：月1回） | ○ スマホ・ケータイ安全教室（7月） |
| ○ 米作り・餅つき支援
（5月、7月、8月、9月、10月、12月） | ◎ 音楽鑑賞教室（9月） |
| ○ 薬物乱用防止教室（6月） | ○ 城攻め踊り指導（9月、10月） |
| ○ 手話講座（6月） | ○ 職場体験学習（11月） |
| ◎ 職業講話（6月） | ○ 高妻神社清掃（11月） |
| ○ 高校説明会（6月） | ○ 避難訓練：火災（11月） |
| ○ プール清掃（6月） | ○ 世代間交流「しめ縄作り」（12月） |
| ◎ 国道沿いの花壇の苗植え（7月） | ◎ 能のワークショップ（12月） |
| | ◎ キャリア教育講演会（2月） |

ボランティア登録者数(21)人
年間参加者実数(169)人 見込も含む

【連携・協働している機関】

読み聞かせグループたんぼぼ、KSSVC事務局
紙屋小校区社会福祉協議会

2 特色ある取組の紹介

1 職業講話（キャリア教育）

○ 活動内容

市内で活躍されている社会人の話を聞くことで、郷土に誇りを持ち、郷土を愛する心を育てることを目的として、「職業講話（キャリア教育）」を行った。講師の牛商丑力株式会社 常務取締役 富永征駿氏から、「生まれ育った小林市で就農、起業した私が今伝えたいこと」という講演題でご講話いただいた。講話後の質疑応答では、生徒たちから多くの質問が出された。



○ 参加者の声

講師の富永征駿氏から、講話の中で「好きなことを見つけてほしい」「いろんなことをやってほしい」「どんな所に居ても自分が望めばできる」などのメッセージを生徒たちに送っていただいた。講話を終えて代表生徒が、「これから様々なことに挑戦して、自分の好きなことを見つけていきたい。」とお礼のことばを述べた。

2 陶芸教室

○ 活動内容

第1学年の生徒を対象とした取組で、生徒たちは「ひもづくり手法」による陶器作りを体験した。体験を通してふるさと紙屋のよさを再発見することを目的として、講師には紙屋で陶芸を営まれている園田陶苑の園田貞哉氏をお招きした。作品は講師に素焼きしていただき、9月に絵付けと本焼きをして、10月の文化発表会で展示した。



○ 参加者の声

講師の園田貞哉氏は、「それぞれの個性を生かして楽しんでください。」とあいさつをされた。体験終了後、代表生徒が、「集中してあっという間に時間が経ちました。とても楽しかったです。」とお礼の言葉を述べた。

3 取組の成果と課題（○:成果 ●:課題）

- 保護者や地域住民を中心としたボランティアの皆様の学校教育に対する期待は大きく、非常に協力的で多様な取組を推進することができた。
- 「学校だより」や学級通信、新聞記事等をとおして、保護者や地域に学校の取組を知ってもらうための情報発信を行うことができた。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため計画どおりの実施が難しく、中止としたり、規模を縮小して実施したりした取組があった。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

本年度中止や規模縮小した取組を中心に、次年度の計画の見直しを進めていきたい。その際、アフターコロナ時代を見据えるとともに、子どもたちや保護者、地域の思い・期待を加味しながら、子どもたちが多様な人材と連携・協働することができるような取組を計画していきたい。

令和4年度 地域学校協働活動等取材一覧(分野別)

※1月までにKSSVC事務局が取材した活動を分野別に掲載(各分野の掲載順は取材順)

教科等支援

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
1	野尻小	ボランティア集会(オンライン)	学校支援ボランティア
2	西小林中	2年 さつまいもの苗切り	木村農園
3	西小林中	2年 さつまいもの苗植え	木村農園
4	野尻小	5・6年 プール掃除	小林市消防団
5	南小	4年 清掃工場見学	NPO法人「赤とんぼ」
6	南小	3年 ホタルの授業	小林市商工観光課
7	栗須小	3年 ホタルの授業	小林市商工観光課
8	永久津小	4・5・6年 図書館オリエンテーション	川野さん(市立図書館)
9	紙屋中	3年 手話講座	野尻手話サークル
10	栗須小	6年 プール掃除	消防団
11	三松小	2年 まちたんけん	自校方式
12	西小林小	校区内史跡巡り	小林ガイドボランティア協会
13	幸ヶ丘小	プール開き	市営プール
14	南小	5年 水辺の学習	小林市生活環境課
15	幸ヶ丘小	3・4年 清掃工場見学	NPO法人「赤とんぼ」
16	永久津小	6年 議会傍聴	小林市管財課・議会事務局
17	細野小	鑑賞教室	村上三絃道
18	野尻中	3年 救急救命講習会	中央消防署
19	野尻中	3年 手話講座	野尻手話サークル
20	東方小	6年 二原遺跡見学	小林ガイドボランティア協会
21	東方中	3年 手話講座	木の実会
22	三松小	6年 史跡巡り	小林ガイドボランティア協会
23	東方小	6年 考古学の授業	県埋蔵文化財センター
24	西小林小	3年 手話講座	木の実会
25	永久津小	6年 社会科見学	霧島岑神社・出の山淡水魚水族館他
26	須木小	4・5・6年 クラブ活動(SUP体験)	すきむらんど
27	細野中	3年 租税教室	小林市税務課
28	永久津小	5年 手話にふれよう	木の実会
29	細野中	2年 小林の魅力再発見	小林市役所職員
30	須木小	3年 スーパー見学	まちなか松栄
31	須木中	3年 手話講座	木の実会
32	南小	3年 スーパー見学	まちなか松栄
33	紙屋小	3年 手話の学習	野尻手話サークル
34	須木小	3年 すき特産見学	すき特産
35	東方小	5年 手話講座	木の実会
36	南小	2年 図書館見学	小林市立図書館職員
37	須木小	3～6年 手話講座	手話通訳派遣協会
38	細野小	3年 手話講座	木の実会
39	細野小	5年 手話講座	木の実会
40	東方小	どこでも博物館(須木小と合同)	県総合博物館
41	三松中	3年 小林市未来予想図	小林市役所職員
42	細野小	4年 史跡めぐり	小林ガイドボランティア協会
43	野尻小	3年 警察署見学	小林警察署
44	須木小	3年 消防署見学	中央消防署
45	紙屋小	5年 トヨタの出前授業「先端技術に学ぶ」	トヨタカローラ宮崎
46	野尻小	5年 手話の学習	野尻手話サークル
47	須木中	2・3年 中高連携講座(着付)	日章学園高校
48	須木小	4年 校外学習(野尻開田他)	小林ガイドボランティア協会
49	西小林小	3年 消防署・警察署見学	中央消防署・小林警察署
50	幸ヶ丘小	花いっぱい運動	宇都さん・坂元さん(学校用務員)
51	東方中	生きる力を育む健康推進事業	竹ノ内さん(前原病院)
52	永久津小	3年 消防署見学	中央消防署

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
53	西小林小	2年 図書館見学	小林市立図書館
54	西小林中	さつまいもの収穫	木村農園
55	野尻小	2年 野尻給食センター見学	京保さん(所長)・八重尾さん(栄養士)
56	三松中	3年 手話講座	木の実会
57	東方小	6年 東方校区文化財バスツアー	井上さん(社会教育課)
58	小林中	デジタル・シティズンシップ模擬授業	今度(いまだ)珠美さん
59	須木小	6年 租税教室	小林県税・総務事務所
60	紙屋小	2年 校外学習	野尻給食センター・図書館野尻分館
61	東方小	4年 リサイクルの学習(オンライン)	リサイクル・プラザJB(埼玉県)
62	小林小	5年 放送局のはたらき(オンライン)	永井友梨アナ他(UMK)
63	三松小	5年 手話教室	手話通訳派遣協会
64	細野小	昔の道具体験	ガイドボランティア・社会教育課
65	東方小	3年 野尻歴史民俗資料館見学	ガイドボランティア・社会教育課
66	東方小	小林の自然環境の学習	黒木さん(県立博物館)
67	三松小	3年 手話教室	手話通訳派遣協会

キャリア教育・進路指導

1	紙屋中	キャリア教育	富永さん(牛商丑力株式会社)
2	須木中	2年 職場体験学習	須木小他
3	野尻中	2年 キャリア教育シンポジウム in 野尻	社会人7名
4	細野中	中学生・小6キャリア教育講演会	脇元華さん(プロゴルファー)
5	三松中	1年「13歳のハローワーク」	8職種9名の社会人

福祉体験学習

1	東方小	支援学校対面式(オンライン)	小林こすもす支援学校小学部
2	西小林中	認知症サポーター養成講座	小倉さん
3	栗須小	5・6年 認知症サポーター養成講座	のじり地域包括支援センター
4	東方中	1年 児童福祉体験	東方保育園
5	東方中	1年 車椅子体験・高齢者疑似体験	小林市社会福祉協議会
6	東方中	福祉施設訪問	陽光の里・ふれあいの里
7	野尻中	2年 福祉体験学習(パラスポーツ)	赤木さん
8	野尻中	福祉体験学習	小林市社会福祉協議会
9	東方小	1年 支援学校との交流会	こすもす支援学校
10	小林小	4年 福祉に関する学習	壹岐さん(霧島おむすび学校)
11	小林小	4年 福祉体験学習(パラスポーツ)	赤木さん
12	細野中	1年 福祉体験学習	小林秀峰高校

安全教育

1	永久津中	1年 交通安全教室	押領司さん(県サイクリング協会)
2	西小林小	交通教室	小林警察署・交通安全協会
3	紙屋中	交通教室	小林警察署・交通安全協会
4	須木小	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
5	須木中	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
6	細野中	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
7	小林中	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
8	野尻中	避難訓練(地震)	自校方式
9	三松中	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
10	野尻小	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
11	幸ヶ丘小	交通安全教室	自校方式
12	東方中	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
13	野尻中	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
14	紙屋中	避難訓練(地震)	自校方式
15	小林中	避難訓練(地震)	自校方式
16	細野小	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
17	細野小	避難訓練(噴火)	自校方式
18	紙屋小	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
19	細野中	避難訓練(地震)	自校方式
20	三松中	避難訓練(不審者対応)	小林警察署生活安全課

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
21	須木中	危機管理課の講話	小林市危機管理課
22	細野中	みやざきシェイクアウト	自校方式
23	野尻中	避難訓練(火災)	野尻分遣所
24	細野中	避難訓練	自校方式
25	須木小	避難訓練	自校方式

生徒指導

1	幸ヶ丘小	1年生を迎える会	自校方式
2	紙屋中	薬物乱用防止	小林警察署
3	細野小	4年 非行防止教室	都城警察署少年補導職員
4	小林中	薬物乱用防止教室	学校薬剤師
5	野尻中	情報モラル教室	自校方式
6	東方中	情報モラル講座	県消費生活センター
7	細野中	SNS情報安全教室	小林警察署生活安全課
8	紙屋中	スマホ・ケータイ安全教室	NTTドコモ・人権擁護委員
9	三松中	1年 ネットトラブル予防授業	牟田さん(弁護士)
10	野尻中	薬物乱用防止教室	小林警察署生活安全課
11	細野中	薬物乱用防止教室	山口さん(小林保健所)
12	須木小	5・6年 非行防止教室	都城警察署少年補導職員
13	紙屋小	6年 薬物乱用防止教室	学校薬剤師

人権教育

1	須木小	人権教室	人権擁護委員
2	細野中	西諸みんなで人権について考える取	竹内昌彦さんによる講演(DVD)
3	野尻中	人権学習(オンライン)	桑名勇輝さん(北海道)
4	野尻中	1年 性教育	中間さん(助産師)

農業体験・森林学習

1	永久津中	2年 さつまいもの苗植え	地域コーディネーター
2	栗須小	5年 稲の種まき	野尻原環境保全会他
3	紙屋小	1・2年 さつまいもの苗植え	JAこばやし・保護者
4	栗須小	1年 梅ちぎり	野尻農産加工センター
5	野尻小	1・2年 さつまいもの苗植え	営農組合・JAこばやし
6	栗須小	2年 さつまいもの苗植え	営農組合・JAこばやし
7	幸ヶ丘小	1～4年 さつまいもの苗植え	自校方式
8	紙屋小・中	小5・中 合同田植え	地域コーディネーター・保護者
9	西小林小	5・6年 田植え	JAこばやし・保護者
10	栗須小	田植え	営農組合・JAこばやし
11	細野小	5年 田植え	まちづくり協議会・JAこばやし青年部
12	栗須小	4年 緑の少年団結団式	小林市農業振興課
13	三松小	5年 田植え	おやじの会
14	永久津小・中	小5・中 合同田植え	JAこばやし・保護者
15	三松中	1年 農業体験学習	北きりしま田舎物語推進協議会
16	細野中	1年 農業体験学習～8日	北きりしま田舎物語推進協議会
17	細野小	4年 そばの種まき	営農組合・JAこばやし
18	永久津中	1年 農業体験学習	北きりしま田舎物語推進協議会
19	永久津小	6年 そばの種まき	JAこばやし
20	小林中	1年 農業体験学習	北きりしま田舎物語推進協議会
21	永久津中	芋の収穫	地域コーディネーター
22	野尻小	3年 稲刈り	営農組合・JAこばやし
23	西小林小	5・6年 稲刈り	JAこばやし・保護者
24	栗須小	2年 いもほり	営農組合・包括支援センター
25	紙屋小・中	小5・中 合同田稲刈り	地域コーディネーター・保護者
26	紙屋小	1・2年 いもほり	JAこばやし青年部・PTA
27	野尻小	1・2年 いもほり	JAこばやし・営農組合
28	西小林小	5・6年 脱穀	JAこばやし青年部・PTA
29	西小林中	2年 農業体験学習	木村農園
30	永久津小・中	小5・中 合同稲刈り	JAこばやし・保護者

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
31	栗須小	稲刈り	みかんやまスマイル会議他
32	細野小	5年 稲刈り	細野まちづくり協議会・JAこばやし
33	細野小	4年 そばの収穫	営農組合・JAこばやし

食育

1	南小	6年 食育・キャリア学習「食の世界旅行」	南校区まちづくり協議会
2	小林小	給食で地元の農産物を応援	小林市地産池消推進協議会
3	南小	5年 味覚の授業	高岩さん(地鶏の里)・地井さん
4	小林小	5年 味覚の授業	地井さん(ここやっど小林)
5	永久津小	年長・小6・中1 そば打ち	JAこばやし北支所他
6	紙屋小	給食感謝集会	自校方式
7	野尻小	給食感謝集会	八重尾さん(学校栄養士)

伝統芸能

1	幸ヶ丘小	太鼓の練習	今村さん(響座)
2	野尻小	5年 棒踊りの歴史学習	東麓新地馬場棒踊り保存会
3	紙屋小	4年 城攻め踊りの講話	紙屋「城攻め踊り」保存会
4	野尻小	棒踊り練習	東麓新地馬場棒踊り保存会
5	小林小	4年 兵児踊り	真方一区兵児踊り保存会
6	紙屋小	4~6年 城攻め踊りリハーサル	紙屋「城攻め踊り」保存会
7	三松中	2年 岩戸神楽の練習	岩戸神楽保存会・木浦さん・郡さん(笛の指導)
8	三松中	2年 岩戸神楽(文化発表会)	岩戸神楽保存会
9	東方中	輪太鼓踊り披露	保護者・地域住民

世代間交流

1	紙屋小	1・2年七夕かざり	地域住民
2	紙屋中	1年 しめ縄づくり	地域住民

ものづくり体験

1	紙屋中	陶芸教室	園田さん(園田陶苑)
2	永久津中	ものづくり体験	染色・広告美術の技能士

国際交流・国際理解

1	野尻小	4年 ネパールとの交流学習	国際交流支援の会
2	三松中	3年 台湾との交流学習	台湾交流センター
3	西小林小	3年 国際交流	小林市国際交流員トニーさん
4	南小	6年 台湾との交流学習	台湾交流センター

ボランティア活動

1	東方小	河川清掃・魚のつかみ取り体験	小林高原野尻漁業協同組合
2	紙屋中	1・3年 高妻神社の清掃	吉村さん(宮司)
3	三松中	1年 花壇植栽活動	小林土木事務所・造園組合
4	須木中	須木地区ボランティア活動	小林市社会福祉協議会須木支所

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
--	------	-----	-----------

読み聞かせ

1	須木中	読み聞かせ	山下さん(小林市立図書館須木分館)
2	東方小	読み聞かせ	よんみろ会
3	須木小	読み聞かせ	あすなる会
4	三松中	読み聞かせ	読み聞かせサークル
5	小林中	1・2年 読み聞かせ	小林子ども遊学会
6	紙屋小	ハートタイム(読み聞かせ)	読み聞かせサークル「たんぽぽ」
7	紙屋中	1・2年 読み聞かせ	読み聞かせサークル「たんぽぽ」
8	幸ヶ丘小	読み聞かせ	西小林中3年生
9	東方中	読み聞かせ(中学生に伝えたいこと)	保護者
10	三松小	冬のおはなし会	わたぐも絵本の会

放課後支援

1	幸ヶ丘小	木工教室(放課後子ども教室)	西諸地区森林組合
---	------	----------------	----------

まちづくり協議会

1	細野小	灯ろうづくり(絵の貼付け)	細野まちづくり協議会
2	細野小	ふれあい登校	細野まちづくり協議会・地域住民

職員研修、小中連携、その他

1	南小	校歌額の撮影	卒業生が2月に制作
2	社会教育	グローバルキッズ(ものづくり教室)	ものづくりマイスター
3	社会教育	子ども会活動(水中生物の調査)	小林保健所・小林市生活環境課
4	東方小	職員研修(校区内の史跡めぐり)	井上さん(社会教育課)
5	市教委	「協働の学校づくり」推進協議会	オンライン開催

事務局

1	県教委	宮崎県研修センター来訪	シンポジウムの打合せ
2	県教委	みやぎきの人づくり・地域づくりシンポジウム	宮崎県研修センター
3	南部教育	地域と学校の「絆」推進委員会	県教育委員会
4	南部教育	県民総ぐるみ教育推進研修会	細野まちづくり協議会・高原中発表他
5	県教委	地域学校協働活動推進員等研修会	実践発表・情報交換等
6	南部教育	南部教育事務所との情報交換	北村さん
7	南部教育	地域と学校の「絆」推進委員会	南部教育事務所



こばやしスクールサポートボランティアセンター(KSSVC)

〒886-0004

小林市細野 38 番地 1 (社会教育課内)

TEL 0984-22-7912

FAX 0984-23-9700